



CHAPTER 3

Cisco Show and Share フェールオーバー コンフィギュレーション

この章では、Cisco Show and Share インストレーションでフェールオーバーを設定する方法について説明します。新規インストレーションおよび既存のインストレーションへのフェールオーバーの追加の両方を取り上げます。

この章は次のトピックで構成されています。

- 「前提条件」 (P.3-1)
- 「制限事項と制約事項」 (P.3-3)
- 「設定用ワークシート」 (P.3-4)
- 「フェールオーバーの設定」 (P.3-6)
- 「クラスタのバックアップ」 (P.3-15)

前提条件

フェールオーバーを設定するには、事前に次の要件を満たす必要があります。

- 「ライセンスの要件」 (P.3-1)
- 「ハードウェア要件」 (P.3-2)
- 「設定要件」 (P.3-3)

ライセンスの要件

フェールオーバー クラスタのライセンスを受ける場合は、プライマリ Cisco DMM アプライアンスに機能、作成者、フェールオーバーの各ライセンスをインストールする必要があります。セカンダリ アプライアンス ペアには、アプライアンスに付属の基本ライセンスのみが必要です。これらのアプライアンスは、フェールオーバー アクティブ化プロセスの中で、オプションの機能、デバイス、作成者の各ライセンスを継承します。

デバイス	必要なライセンス
プライマリ Cisco DMM ペアおよび Cisco Show and Share ペア	<ul style="list-style-type: none"> 基本ライセンス フェールオーバー ライセンス (オプション) 機能ライセンス (ライブ イベント モジュール、SNMP 通知モジュールなど) (オプション) 作成者ライセンス (オプション) DMP ライセンス
セカンダリ Cisco DMM ペアおよび Cisco Show and Share ペア	基本ライセンス

フェールオーバー コンフィギュレーションをアクティブ化するには、プライマリ Cisco DMM アプライアンスにフェールオーバー ライセンスをインストールしておく必要があります。フェールオーバーの設定はライセンスがなくても入力できますが、ライセンスをインストールするまでフェールオーバーをアクティブ化することはできません。ライセンスのインストールについては、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/docs/video/digital_media_systems/5_x/5_2/dmm/user/guide/admin/licenses.html

ハードウェア要件

フェールオーバー コンフィギュレーションは、次の Cisco DMS ハードウェア プラットフォームでサポートされています。

- SNS-SVR-C210EN-K9
- SNS-SVR-C200WG-K9
- DMM-SVR-C210-K9

次の DMS ハードウェア プラットフォームではフェールオーバーを設定できません。

- MCS-7835-H3
- WAVE-574

フェールオーバー ペアのプライマリ アプライアンスとセカンダリ アプライアンスは、同一でなければなりません。表 3-1 は、プライマリ アプライアンスに対応するフェールオーバー アプライアンス部品番号を示しています。

表 3-1

プライマリ アプライアンス	セカンダリ アプライアンス
Cisco Digital Media Manager DMM-SVR-C210-K9	DMM-FA-C210-K9
Cisco Show and Share Enterprise SNS-SVR-C210EN-K9	SNS-FA-C210EN-K9
Cisco Show and Share Workgroup SNS-SVR-C200WG-K9	SNS-FA-C200WG-K9

設定要件

- フェールオーバーを設定する前に、すべてのアプライアンス上で NTP を設定します。
- フェールオーバーを設定する前に、必要な FQDN をネーム サーバに追加する必要があります。

制限事項と制約事項

Cisco Show and Share アプライアンスのみにフェールオーバーを設定することはできません。Cisco DMM と Cisco Show and Share の両方のアプライアンスにフェールオーバーを設定する必要があります。

設定用ワークシート

コンフィギュレーションを完成させるには、次の表の情報が必要となります。作業を始める前に、これらの表を印刷して情報を記入することを推奨します。

- 表 3-1 (P.3-4)、「DMM フェールオーバー設定用ワークシート」。
- 表 3-2 (P.3-5)、「Cisco Show and Share フェールオーバー設定用ワークシート」。

表 3-1 DMM フェールオーバー設定用ワークシート

項目	値	注記
DMM		
プライマリ アプライアンスの FQDN		既存のインストレーションの場合は、既存のアプライアンスの FQDN。 新規インストレーションの場合は、ユーザが DMM へのアクセスに使用する FQDN。 この FQDN は、Cisco DMM フェールオーバー クラスターの仮想 FQDN になります。
プライマリ アプライアンスの IP アドレス		既存のインストレーションの場合は、既存のアプライアンスの IP アドレス。 新規インストレーションの場合は、ユーザが DMM へのアクセスに使用する IP アドレス。 この IP アドレスは、Cisco DMM フェールオーバー クラスターの仮想 IP アドレスになります。
プライマリ アプライアンスの代替の専用 FQDN		元の FQDN が DMM の仮想 FQDN になった後でプライマリ アプライアンスに適用される FQDN。
プライマリ アプライアンスの代替の専用 IP アドレス		元の IP アドレスが DMM の仮想 IP アドレスになった後でプライマリ アプライアンスに適用される IP アドレス。
セカンダリ アプライアンスの専用 FQDN		セカンダリ アプライアンスの FQDN。
セカンダリ アプライアンスの専用 IP アドレス		セカンダリ アプライアンスの IP アドレス。
(オプション) プライマリ アプライアンスの複製インターフェイスの IP アドレス		プライマリおよびセカンダリ DMM アプライアンスの複製インターフェイスの間でスイッチを使用する場合は、プライマリ アプライアンス上のインターフェイスで使用される IP アドレス。
(オプション) セカンダリ アプライアンスの複製インターフェイスの IP アドレス		プライマリおよびセカンダリ DMM アプライアンスの複製インターフェイスの間でスイッチを使用する場合は、セカンダリ アプライアンス上のインターフェイスで使用される IP アドレス。

表 3-2 Cisco Show and Share フェールオーバー設定用ワークシート

項目	値	注記
Show and Share		
プライマリ アプライアンスの FQDN		<p>既存のインストレーションの場合は、既存の Show and Share アプライアンスの FQDN。</p> <p>新規インストレーションの場合は、ユーザが Cisco Show and Share へのアクセスに使用する FQDN。</p> <p>この FQDN は、Cisco DMM フェールオーバー クラスタの仮想 FQDN になります。</p>
プライマリ アプライアンスの IP アドレス		<p>既存のインストレーションの場合は、既存のアプライアンスの IP アドレス。</p> <p>新規インストレーションの場合は、ユーザが Cisco Show and Share へのアクセスに使用する IP アドレス。</p> <p>この IP アドレスは、Cisco DMM フェールオーバー クラスタの仮想 IP アドレスになります。</p>
プライマリ アプライアンスの代替 FQDN		元の FQDN が Show and Share の仮想 FQDN になった後でプライマリ アプライアンスに適用される FQDN。
プライマリ アプライアンスの代替 IP アドレス		元の IP アドレスが Show and Share の仮想 IP アドレスになった後でプライマリ アプライアンスに適用される IP アドレス。
セカンダリ アプライアンスの FQDN		セカンダリ アプライアンスの FQDN。
セカンダリ アプライアンスの IP アドレス		セカンダリ アプライアンスの IP アドレス。
(オプション) プライマリ アプライアンスの複製インターフェイスの IP アドレス		プライマリおよびセカンダリ Show and Share アプライアンスの複製インターフェイスの間でスイッチを使用する場合は、そのインターフェイスで使用される IP アドレス。
(オプション) セカンダリ アプライアンスの複製インターフェイスの IP アドレス		プライマリおよびセカンダリ Show and Share アプライアンスの複製インターフェイスの間でスイッチを使用する場合は、セカンダリ アプライアンス上のインターフェイスで使用される IP アドレス。

フェールオーバーの設定

DMS インストールに対してフェールオーバーを設定するには、次の手順を上から順に実行します。

1. 「プライマリ DMS ペアのセットアップ」 (P.3-6)
2. 「セカンダリ DMS ペアのセットアップ」 (P.3-6)
3. 「プライマリおよびセカンダリ アプライアンスの複製インターフェイスの接続」 (P.3-7)
4. 「非マスター アプライアンスの設定」 (P.3-8)
5. 「プライマリ DMM (クラスタ マスター) の設定」 (P.3-10)
6. 「フェールオーバー クラスタのアクティブ化」 (P.3-13)
7. 「複製のモニタとコンフィギュレーションの確認」 (P.3-14)

プライマリ DMS ペアのセットアップ

既存の DMS ペアがある場合は、この手順をスキップしてください。既存の FQDN と IP アドレスが、クラスタの仮想 FQDN および IP アドレスになります。ユーザがブックマークを変更する必要はありません。

プライマリ DMS ペアは、スタンドアロン システムと同じようにセットアップします。システムのセットアップについては、『[Quick Start Guide for Cisco Digital Media Suite 5.3.x](#)』を参照してください。システムをセットアップする際には、**アプライアンスのプライマリ FQDN および IP アドレス**を使用します。これらは、ユーザがアクセスする FQDN と IP アドレスです。これらは、フェールオーバー コンフィギュレーション プロセスで**仮想 FQDN および仮想 IP アドレス**になります。

ここで使用したプライマリ FQDN と IP アドレスは、後から代替 FQDN および IP アドレスで置き換えます。

次の手順に進む前に必要な作業

- DMM にフェールオーバー ライセンスをインストールします。
- アプライアンスにサードパーティ証明書（使用する場合）をインストールします。
- アプライアンスで NTP を有効にします。

セカンダリ DMS ペアのセットアップ

セカンダリ DMS ペアは、スタンドアロン システムと同じようにセットアップします。システムのセットアップについては、『[Quick Start Guide for Cisco Digital Media Suite 5.3.x](#)』を参照してください。

セカンダリ ペアには、セカンダリ FQDN および IP アドレスを使用します。

アプライアンスのアプリケーション インターフェイスは、プライマリ DMM アプライアンスおよび Show and Share アプライアンスと同じサブネット上にある必要があります。

セカンダリ DMS ペアには、基本ライセンスのみをインストールしておく必要があります。

プライマリおよびセカンダリ アプライアンスの複製インターフェイスの接続

プライマリおよびセカンダリ アプライアンスの複製インターフェイスを接続するには、2つのオプションがあります。

- クロス ケーブルでアプライアンスを直接接続する。
- スイッチを介してアプライアンスを接続する。

複製インターフェイス間にスイッチを使用する場合は、両方の複製インターフェイスが、アプリケーションインターフェイスとは別のサブネット上にある必要があります。

ギガビットイーサネット 2 (下の図の 1 のラベルが付いた矢印) が、複製インターフェイスです。
 図 3-1 は、Cisco DMM-SVR-C210-K9 および SNS-SVR-C210EN-K9 アプライアンスでの複製インターフェイスの場所を示しています。図 3-2 は、Cisco SNS-SVR-C200WG-K9 アプライアンスでの複製インターフェイスの場所を示しています。

図 3-1 DMM-SVR-C210-K9 および SNS-SVR-C210EN-K9 アプライアンスの複製インターフェイス

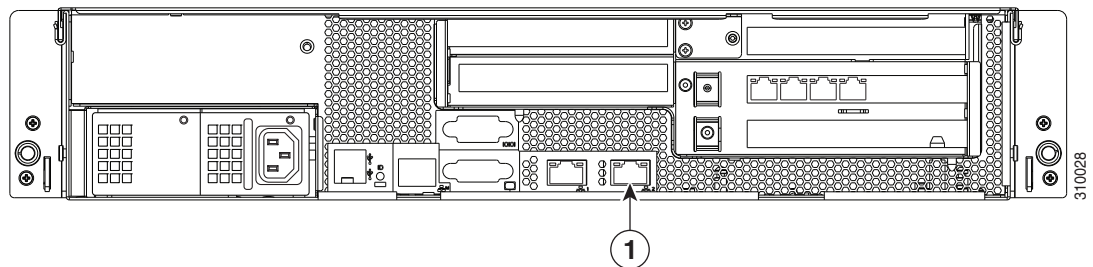
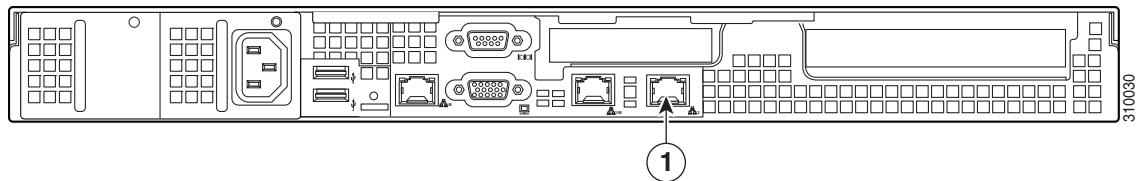


図 3-2 SNS-SVR-C200WG-K9 アプライアンスの複製インターフェイス



手順

プライマリ アプライアンスとセカンダリ アプライアンスを接続するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** プライマリ DMM のイーサネット 2 インターフェイスを、セカンダリ DMM のイーサネット 2 インターフェイスに接続します。クロス ケーブルを使用して直接接続するか、またはスイッチを介して接続できます。
- ステップ 2** プライマリ Show and Share アプライアンスのイーサネット 2 インターフェイスを、セカンダリ Show and Share アプライアンスのイーサネット 2 インターフェイスに接続します。クロス ケーブルを使用して直接接続するか、またはスイッチを介して接続できます。

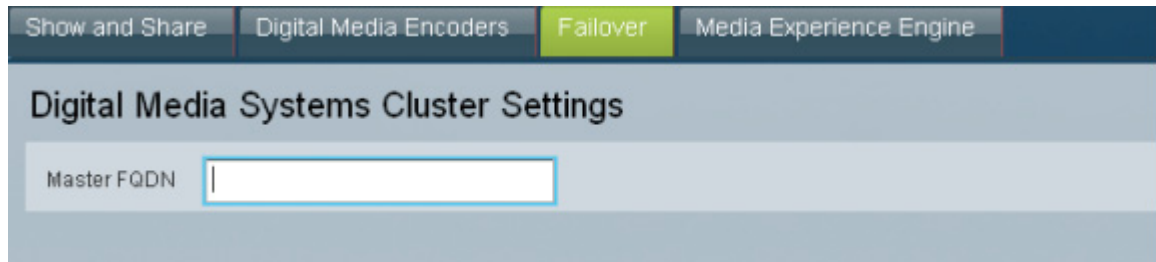
非マスター アプライアンスの設定

プライマリ DMM アプライアンスは、クラスタ マスターです。クラスタ マスターを設定する前に、プライマリ DMM アプライアンスをクラスタ マスターとして認識するように、非マスター アプライアンスを設定する必要があります。

非マスター デバイスでフェールオーバーを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 プライマリ Cisco Show and Share アプライアンスを設定します。

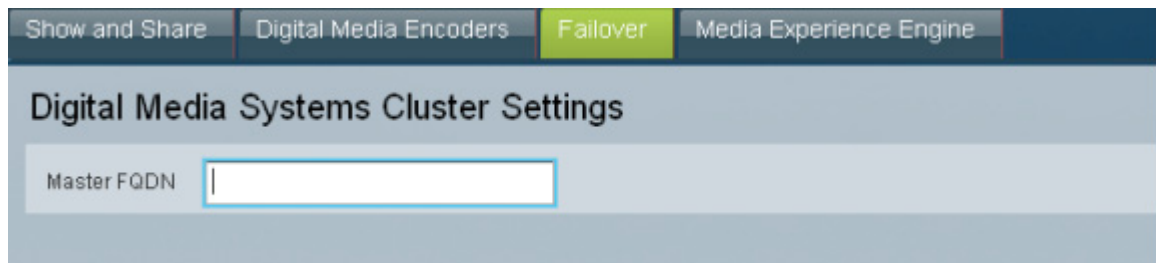
- a. **プライマリ FQDN** を使用してプライマリ Cisco Show and Share インターフェイスにアクセスし、スーパーユーザまたは管理者のアカウントを使用して Cisco Show and Share にログインします。
- b. グローバル ナビゲーション メニューから [Administration] を選択します。
- c. [Failover] タブをクリックします。
- d. [Master FQDN] フィールドに、DMM の **プライマリ FQDN** を入力します。代替 FQDN は使用しないでください。



- e. [Save] をクリックします。
- f. Cisco Show and Share を終了します。

ステップ 2 セカンダリ Cisco Show and Share アプライアンスを設定します。

- a. **セカンダリ FQDN** を使用してセカンダリ Cisco Show and Share インターフェイスにアクセスし、スーパーユーザまたは管理者のアカウントを使用して Cisco Show and Share にログインします。
- b. グローバル ナビゲーション メニューから [Administration] を選択します。
- c. [Failover] タブをクリックします。
- d. [Master FQDN] フィールドに、DMM の **プライマリ FQDN** を入力します。代替 FQDN は使用しないでください。



- e. [Save] をクリックします。
- f. Cisco Show and Share を終了します。

ステップ 3 セカンダリ DMM アプライアンスを設定します。

- a. セカンダリ FQDN を使用してセカンダリ DMM インターフェイスにアクセスし、スーパーユーザまたは管理者のアカウントを使用して DMM にログインします。
- b. ホームページで [Administration] を選択します。
- c. [Failover] タブをクリックします。
[Failover Configuration] ページが表示されます。

Dashboard | **Failover** | Settings | Security | Users | Alerts

Failover Configuration | Failover Status

Failover Configuration

Digital Media Suite Cluster Settings

Name*:

Set as Master:

Master FQDN:

Digital Media Manager Failover Settings

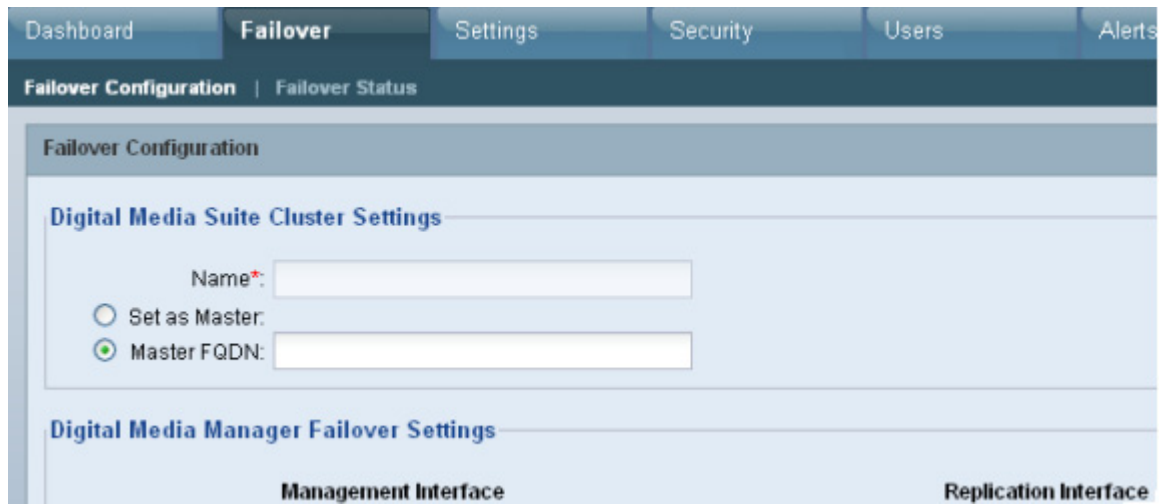
Management Interface | Replication Interface

- d. [Digital Media Suite Cluster Settings] 領域で [Master FQDN] が選択されていることを確認し、[Master FQDN] フィールドに DMM のプライマリ FQDN を入力します。代替 FQDN は使用しないでください。
- e. [Save] をクリックします。
- f. DMM を終了します。

プライマリ DMM (クラスタ マスター) の設定

プライマリ DMM を設定するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** **プライマリ FQDN** を使用してプライマリ DMM インターフェイスにアクセスし、スーパーユーザまたは管理者のアカウントを使用して DMM にログインします。
- ステップ 2** ホームページで [Administration] を選択します。
- ステップ 3** [Failover] タブをクリックします。
[Failover Configuration] ページが表示されます。



- ステップ 4** プライマリ DMM をクラスタ マスターとして設定します。
 - a. [Digital Media Suite Cluster Settings] で、[Set as Master] を選択します。
 - b. (オプション) [Name] フィールドにクラスタの名前を入力します。デフォルトでは、「DMS Cluster」がクラスタ名として割り当てられます。
- ステップ 5** DMM フェールオーバーを設定します。



- (注)** [Virtual FQDN] フィールドに、元のプライマリ DMM FQDN が自動的に入力されます。
[Virtual FQDN] の値は変更できません。

- [Primary FQDN] フィールドで、表示されている FQDN を代替のプライマリ FQDN で置き換えます。
- [Secondary FQDN] フィールドにセカンダリ FQDN を入力します。
- 次のいずれかを行って、DMM 複製インターフェイスを設定します。
 - デバイス間にクロス ケーブルを使用する場合は、[Crossover] が選択されていることを確認します。
 - デバイス間にスイッチを使用する場合は、[Switched] が選択されていることを確認し、次の情報を入力します。

Primary IP	プライマリ DMM の複製インターフェイス (イーサネット 2) の IP アドレス。
Secondary IP	セカンダリ DMM の複製インターフェイス (イーサネット 2) の IP アドレス。
Subnet Mask	アドレスのサブネット マスク。

ステップ 6 Cisco Show and Share フェールオーバーを設定します。



(注) [Virtual FQDN] フィールドに、元のプライマリ FQDN が自動的に入力されます。[Virtual FQDN] の値は変更できません。

- [Primary FQDN] フィールドで、表示されているプライマリ FQDN を代替のプライマリ FQDN で置き換えます。
- [Secondary FQDN] フィールドにセカンダリ FQDN を入力します。

- 次のいずれかを行って、Cisco Show and Share アプライアンスの複製インターフェイスを設定します。



(注) DMM に使用しているものと同じタイプの複製インターフェイス ([Crossover] または [Switched]) を使用する必要があります。

- デバイス間にクロス ケーブルを使用する場合は、[Crossover] が選択されていることを確認します。
- デバイス間にスイッチを使用する場合は、[Switched] が選択されていることを確認し、次の情報を入力します。

Primary IP	プライマリ DMM の複製インターフェイス (イーサネット 2) の IP アドレス。
Secondary IP	セカンダリ DMM の複製インターフェイス (イーサネット 2) の IP アドレス。
Subnet Mask	アドレスのサブネット マスク。

ステップ 7 [Save] をクリックします。

次の手順

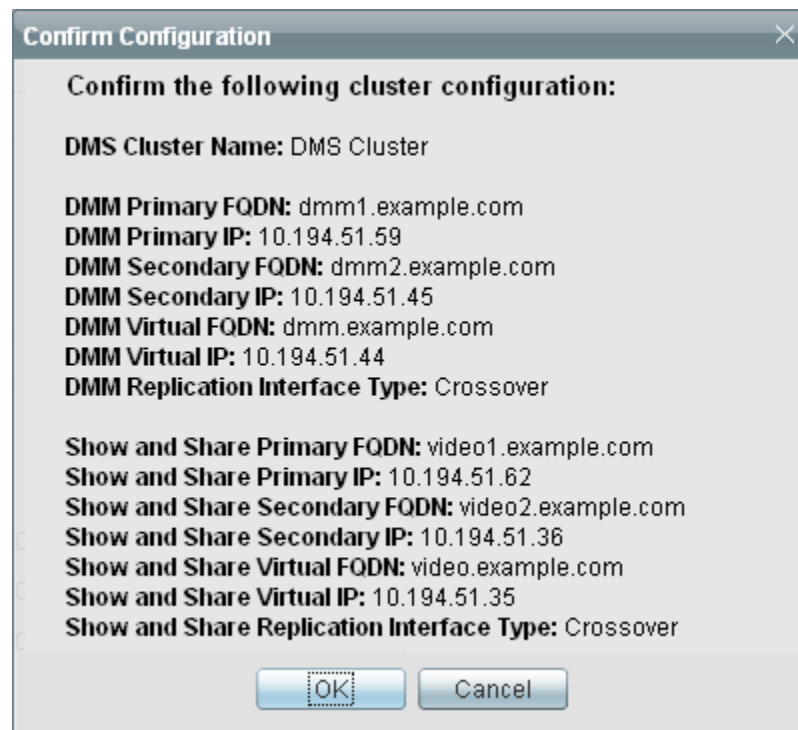
次に、「[フェールオーバー クラスタのアクティブ化](#)」(P.3-13) を参照してください。

フェールオーバー クラスタのアクティブ化

DMM クラスタをアクティブ化すると、プライマリ DMM によってフェールオーバー クラスタ内の他のアプライアンスが設定され、アクティブ化されます。アクティブ化には、最大で 20 分かかる場合があります。アクティブ化が完了すると、プライマリ アプライアンスがセカンダリ アプライアンスに複製されます。複製プロセスには、最大で 15 時間かかる場合があります。ただし、プライマリ アプライアンスは複製中も使用可能であり、ユーザは通常どおりにファイルの表示とアップロードを行うことができます。

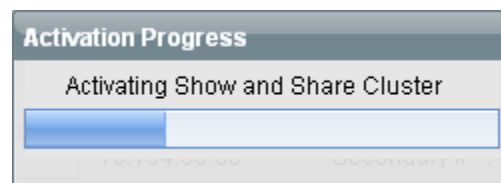
ステップ 1 [Activate] をクリックします。

ダイアログにフェールオーバー クラスタ設定の要約が表示されます。



ステップ 2 [OK] をクリックします。

アクティブ化が開始されます。アクティブ化の進行状況を示す一連のダイアログが表示されます。



アクティブ化が進行している間は、インターフェイス内をクリックしてこのページから離れることはできません。ブラウザを閉じるか、またはブラウザのナビゲーション機能を使用してこのページをいったん離れた後に戻ると、[Activate] ボタンが有効であるように見えます。ただし、再びアクティブ化を試みると、「[FailoverConfig]: Another request already in progress」というメッセージが表示されます。

アクティブ化には、最大で 20 分かかる場合があります。アクティブ化が完了すると、複製が行われます。複製の進行状況は、[Failover Status] ページでモニタできます。複製には、最大で 15 時間かかる場合があります。

次の手順

複製の進行状況をモニタし、コンフィギュレーションを確認します。「複製のモニタとコンフィギュレーションの確認」(P.3-14) を参照してください。

複製のモニタとコンフィギュレーションの確認

[Failover Status] ページに移動します ([Administration] > [Failover] > [Failover Status])。

複製が進行している間は、プライマリ アプライアンスが「Up/Active」状態、セカンダリ アプライアンスが「Down」状態になります。これは正常です。複製の完了率を示すステータス バーが表示されます。



(注)

このページには、アクティブ化が完了して複製が開始されるまで情報が何も表示されません。

Failover Status

Digital Media Manager Failover Status

Time of last event: 04/05/2011 12:19:11 PM PDT
Server Time: 04/05/2011 12:21:54 PM PDT

✔ **dmm1.example.com (Primary Server):** Up/Active
 ⚠ **dmm2.example.com (Secondary Server):** Down

dm2filesystem	<div style="width: 75.8%; height: 15px; background-color: #4f81bd; border: 1px solid #ccc;"></div>	75.8%
contentfilesystem	<div style="width: 0.7%; height: 15px; background-color: #ccc; border: 1px solid #ccc;"></div>	0.7%

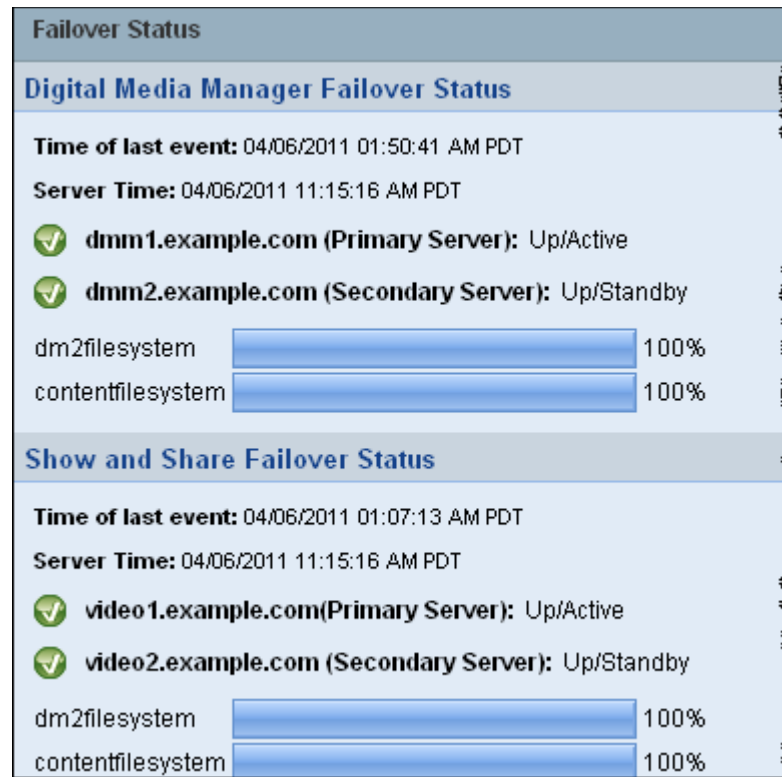
Show and Share Failover Status

Time of last event: 04/05/2011 12:19:13 PM PDT
Server Time: 04/05/2011 12:21:54 PM PDT

✔ **video1.example.com(Primary Server):** Up/Active
 ⚠ **video2.example.com (Secondary Server):** Down

dm2filesystem	<div style="width: 100%; height: 15px; background-color: #4f81bd; border: 1px solid #ccc;"></div>	100%
contentfilesystem	<div style="width: 2.2%; height: 15px; background-color: #ccc; border: 1px solid #ccc;"></div>	2.2%

複製が完了すると、プライマリ アプライアンスが「Up/Active」状態になり、セカンダリ アプライアンスが「Up/Standby」状態になったことが表示されます。



複製完了時にいずれかのシステムがまだ「Down」状態にある場合は、AAI を使用してそのシステムにアクセスし、システムをリポートしてください。AAI の使用方法については、Cisco.com で『[Administration Guide for Cisco Digital Media Suite 5.3.x Appliances](#)』を参照してください。

クラスタのバックアップ

スタンドアロンの Cisco DMS コンフィギュレーションから作成したバックアップを、フェールオーバー コンフィギュレーション上で復元することはできません。アクティブ化と複製が完了したら、ただちにアクティブ アプライアンスをバックアップする必要があります。

『[Administration Guide for Cisco Digital Media Suite 5.3.x Appliances](#)』の「[Backup and Restore Appliance Configurations](#)」の章を参照してください。

